

日本に溢れるカタカナ語とその影響

——大学生のカタカナ語の認識と英語学習——

The Flood of *Katakana* Words in Japan and Its Influence
on Learning English and on Japanese Society :
How University Students Recognize *Katakana* Words

森 光 有 子
中 島 寛 子

は じ め に

カタカナ語は広く日本の日常生活の中に浸透している。カタカナ語の認知度は小学生においてもかなり高いということは森光・中島（2006）でも示された。¹⁾このカタカナ語を英語学習に生かすべきだ、あるいはカタカナ語をもとに学習していく方がはるかに効率的であるという主張も聞かれる。²⁾しかし森光・中島（前出）での調査は、カタカナ語の有効性と併せて、あるいはそれ以上に、カタカナ語の弊害を指摘する結果となった。

カタカナ語の浸透度あるいは認知度が高い故の危険性はいくつかの面で見られたが、和製英語を含め身の回りにあるカタカナ語をすべて正しい英語だと思い込んで使用することもその一つである。³⁾英語学習の観点から見ると、この思い込みは大きな混乱を招く。例えば、小学生への調査でも認知度の高かった「レベル・アップ」や「バージョンアップ」は和製英語であって英語ではないが、しかし幼い頃からこれらのカタカナ語に慣れ親しみ、英語だと誤解して使用してしまった場合、英語話者に話し手の意図は伝わらない。しかしこれだけ好き勝手にカタカナ語が溢れかえっている日本社会で、このようなカタカナ語を避けて通るのは非常に難しい。どれが英語でどれがカタカナ語あるいは和製英語かの区別をするのもまた、面倒であったり難しいかもしれない。その結果、知っているカタカナ語をす

べて英語として使用することにもなり、英語学習において混乱したり、思わぬ問題に陥ったりすることにもなる。

幼い頃からカタカナ語に囲まれて育ち、片方で英語を学ぶ状況にある人たちは、実際どのように英語とカタカナ語を認識しているのだろうか。今回、大学生を対象に実施した調査結果をもとに、この問題を考えていく。調査対象になったのは、関西にある S 大学（共学）と D 女子大学の主に英語系の学科の学生 1 年次生から 4 年次生、計 178 人の学生である。調査は 2006 年 7 月から 11 月にかけて実施された。少なくとも 6 年以上英語を学習している学生たちであるが、彼（女）らは同時に長期に亘ってカタカナ語に晒されてきた。日常的にカタカナ語を目にし耳にしている大学生への調査を通して、カタカナ語が英語学習にどう影響しているのかを考えたい。

まず 1 と 2 で、今回の調査内容とその結果を述べる。次に 3 で、その結果から考えられる英語学習および日本社会へのカタカナ語の影響を探る。さらに 4 で、なぜ日本社会にカタカナ語が氾濫するのかを考え、最後にカタカナ語とそれに代わる新しい文体の日本語への影響を指摘する。

1. 調査内容

上記に述べた学生を対象に、カタカナ語一語を含んだ日本語文を 50 文与えた。カタカナ語の下にはそれに対応する英語表記が示され、その英語表記が正しい英語かどうかを○×で答え、×と答えた場合は、二つの選択肢（a）（b）から正しい英語表現を選び、○をしてもらった（資料 1 参照）。調査を始める前に、学生には解答の仕方について例を用いて説明し、調査は約 10 分間の解答時間を取って行った。

調査に使用したカタカナ語 50 語は、日常よく見かけたり、使われたりしている語を選んだ。一見、英語をカタカナで表記したもののように見えるが、多くは和製英語のカタカナ表記であり、この 50 語のカタカナ語の内 40 語の英語表記は正しい英語表現ではない。これらの和製英語はいくつかの型に分類することが可能である。まず一つ目の和製英語の型は「組

み合わせ型」である。「組み合わせ型」とは「**up** や **no** などの短く簡単な語をほかの語とくっつけて作ったもの」(尾崎 2005: 11)で、作り方が簡単でイメージしやすいためか、この型の和製英語は見聞きすることが非常に多い。調査ではこの型のカタカナ語を 4 語出題している。二つ目の和製英語の型は「意味ずれ型」である。これは「英語としては正しい語であるけれども、その語本来の意味とは少し、あるいはかなりずれて使われている和製英語」(尾崎 2005: 32)のことで、大きな誤解を招く可能性が高いと思われる。この型のカタカナ語は 11 語出題した。三つ目の和製英語の型は「省略型」であり、「相当する本来の英語を省略して短くなった語」(尾崎 2005: 62)のことで、調査には 5 語出題した。四つ目は「その語に相当する英語とかなり、あるいは全く異なる和製英語」(尾崎 2005: 106)といわれる「純和製型」である。⁴⁾調査にはこの型のカタカナ語を 19 語出題した。五つ目の型は「他言語型」である。これは「一見英語のようで、実は英語以外の言語が起源であるという語」(尾崎 2005: 159)のことで、調査では 1 語出題した。そして最後に「日本語と英語一致型」である。⁵⁾「日本語と英語一致型」というのは、英語の発音をカタカナ表記したもので、また英語の本来の意味と同じ意味で使われている語のことである。調査にはこの一致型のカタカナ語を 10 語入れた。

この調査を通して次の二点について調べる。第一点目は、学生はカタカナ語の英語表記が正しい英語表現なのかそうでないのか判断できるか、つまり、カタカナ語と英語との区別はついているかである。二点目は、カタカナ語の英語表記が誤りであると正しく判断できた場合、そのカタカナ語に対する正しい英語表現を選択できるか、つまり、学生は英語表記が誤りであると正しく判断し、かつそれに対する正しい英語表現も知っているかである。さらに、これらの結果から、英語学習におけるカタカナ語の影響、日本社会へのカタカナ語の影響についても考えてみる。

2. 調査結果

この章では、正誤判断の割合および正答率から見る調査結果と型別に見る調査結果を述べる。

2.1 正誤判断の割合および正答率から見る調査結果

調査項目の一つ目、カタカナ語の英語表記の正誤に関しては、50 語中半数の 25 語が 70% 以上の正解率であった。70% 以上の正解率であったカタカナ語は、「ティーシャツ」(97.8%)、「アルバイト」(96.6%)、「サラリーマン」(93.3%)、「ガソリンスタンド」(92.7%)、「アバウト」(89.9%)、「トレーナー」(89.3%)、「サポーター」(88.8%)、「スマート」(87.6%)、「ワイドショウ」(86.5%)、「キャッシュコーナー」(86.0%)、「フライト・アテンダント」(86.0%)、「オーディエンス」(84.3%)、「ペットボトル」(83.1%)、「ジェネレーション・ギャップ」(80.3%)、「マイペース」(79.8%)、「コンセント」(79.8%)、「カンニング」(79.2%)、「フライド・ポテト」(78.1%)、「ハプニング」(75.3%)、「タウンページ」(74.2%)、「ファミリー・レストラン」(73.0%)、「プライスダウン」(72.5%)、「レベル・アップ」(72.5%)、「フロント」(71.9%)、「フリーダイヤル」(71.3%) である。この内「ティーシャツ」「サポーター」「フライト・アテンダント」「オーディエンス」「ジェネレーション・ギャップ」の 5 語は英語表記と一致するカタカナ語である。

英語表記の正誤判断の正解率が 60% 以上 70% 未満であったカタカナ語は、「マイブーム」(69.7%)、「ゴールデン・ウィーク」(68.0%)、「サークル」(67.4%)、「プッシュホン」(66.9%)、「ケアハウス」(66.9%)、「サイン」(61.8%) である。

英語表記の正誤判断の正解率が 50% 以上 60% 未満であったカタカナ語は、「ガイドライン」(59.0%)、「リーズナブル」(59.0%)、「バリアフリー」(58.4%)、「アイスコーヒー」(56.7%)、「フォアボール」(55.1%)、「イメージアップ」(54.5%)、「ガーデニング」(54.5%)、「モーニン

グ・コール」(54.5%)である。このうち「ガイドライン」「リーズナブル」「バリアフリー」「ガーデニング」は日本語と英語の一致型である。

英語表記の正誤判断の正解率が49%以下であったカタカナ語は、「ホームステイ」(48.9%)、「カタログ」(48.3%)、「エンゲージ・リング」(45.5%)、「ネック」(41.6%)、「レポート」(41.6%)、「ケース・バイ・ケース」(37.6%)、「セルフ・サービス」(36.0%)、「リニューアル」(36.0%)、「オープン・キャンパス」(36.0%)、「リスト・アップ」(28.1%)、「リフォーム」(22.5%)である。この内「日本語と英語一致型」の語は「カタログ」である。(以上、正誤判断の正解率については資料2参照)

上記の結果より、カタカナ語50語中正解率70%以上の25語においては、そのままそれらを英語表記しても英語の中では使用できない、もしくはそのまま英語表記をして使用できると多くの学生が正しく判断できたと考えられるが、残りのカタカナ語25語においてはその判断がかなり曖昧であることが分かる。つまり、そのまま英語表記をしても英語では使用できない20語のカタカナ語をそのまま英語表記して使用できている学生、そして、日本語と英語が一致している5語のカタカナ語をそのまま英語表記しても正しい英語表現にはつながらないと思っている学生が多いということである。

次に調査項目の二つ目であるが、これはカタカナ語の英語表記の正誤判断において「誤り(×)」が正解である場合、そのカタカナ語に対応する正しい英語表現を選択できるかどうかの結果である。正誤判断の正解率が70%以上であったカタカナ語25語のうち、「誤り」が正解だったのは20語で、それらの正しい英語表現の選択率は以下の通りである。正解率の高いものから順に挙げると、「スマート」(100%)、「アルバイト」(98.3%)、「ペットボトル」(94.6%)、「サラリーマン」(92.8%)、「ガソリンスタンド」(91.5%)、「カンニング」(84.4%)、「フライド・ポテト」(78.4%)、「ファミリー・レストラン」(76.2%)、「マイペース」(75.4%)、「トレナー」(70.4%)、「タウンページ」(66.7%)、「フロント」(64.1%)、「プライスダウン」(62.0%)、「レベル・アップ」(45.0%)、「キャッシュコーナー」(41.2%)、「ワイドショウ」(40.9%)、「アバウト」(38.1%)、

「コンセント」(33.8%)、「フリーダイヤル」(29.9%)、「ハプニング」(6.7%)であった。

正しい英語表現選択の正解率は英語表記の正誤判断の正解率と比例するとは限らず、カタカナ語の英語表記が「誤り」であると正しく判断できる認識の高さは必ずしも正しい英語表現の選択にはつながっていないことが分かる。正誤判断の正解率が70%以上のカタカナ語20語中、正しい英語表現選択の正解率が70%以上であった語は10語だけである。特に「アバウト」「ワイドショウ」「キャッシュコーナー」は、その英語表記が誤りであるという認識は80%を超えるのに、その内正しい英語表現選択の正解に至ったのは、上記の通り50%にも満たない。

また、全体(178人)の内カタカナ語に対する正しい英語表現を認識できる学生が70%以上であるカタカナ語は、「ティーシャツ」(97.8%)、「アルバイト」(94.9%)、「サポーター」(88.8%)、「スマート」(87.6%)、「サラリーマン」(86.5%)、「フライト・アテンダント」(86.0%)、「ガソリンスタンド」(84.8%)、「オーディエンス」(84.3%)、「ジェネレーション・ギャップ」(80.3%)、「ペットボトル」(78.7%)の10語だけであり、いかにカタカナ語が英語につながっていないかが表れている。

2.2 型別に見る調査結果

和製英語の6つの型別による調査結果を見る。結果は次の通りである。

①組み合わせ型

この型の語は、“up”や“down”などの短く簡単な語と他の語とを組み合わせで作った造語である。この型に属するのは以下の語である。

カタカナ語	正誤判断の正解率	正誤判断正解者中の 選択の正解率	全体(178人)の中 での正答率
レベル・アップ	72.5%	45.0%	32.6%
プライスダウン	72.5%	62.0%	44.9%
リスト・アップ	28.1%	86.0%	24.2%
イメージアップ	54.5%	82.5%	44.9%

この中では、「レベル・アップ」と「プライスダウン」において、72.5%の学生が英語としては疑わしく思っているものの、その内「レベル・アップ」については55%の学生が、「プライスダウン」については38%の学生が正しい英語表現を知らないという結果が出た。「リスト・アップ」については正誤判断の正解率が28.1%とかなり低く、「リスト・アップ」のままですで正しい英語として通じると思っている学生が非常に多いことが分かった。

②意味ずれ型

この型の語は、英語として存在している語を用いているが、その語の意味は本来の英語の意味と少し、あるいはかなりずれている和製英語で、使用すると大きな誤解を招く可能性が高いと思われる語である。この型には次の語が含まれる。

カタカナ語	正誤判断の正解率	正誤判断正解者中の 選択の正解率	全体(178人)の中 での正答率
トレーナー	89.3%	70.4%	62.9%
アバウト	89.9%	38.1%	34.3%
スマート	87.9%	100%	87.6%
リニューアル	36.0%	25.0%	9.0%
サイン	61.8%	48.2%	29.8%
リフォーム	22.5%	32.5%	7.3%
レポート	41.6%	17.6%	7.3%
カンニング	79.2%	84.4%	66.9%
コンセント	79.8%	33.8%	27.0%
サークル	67.4%	90.8%	61.2%
ハプニング	75.3%	6.7%	5.1%

「トレーナー」「スマート」「カンニング」は全体のカタカナ語と比べてみても、正誤判断、正しい英語表現の選択ともに70%以上の正解率である。これらは英語の授業などでカタカナ語と英語の比較表現としてよく取り上げられている可能性も高く、その結果、学生が使い分けできる率が高いのではないと思われる。

日本語では「リニューアル」は店の改装などに、「リフォーム」は家の改築などに使われているが、どちらも英語に存在する語ではあるものの、「改装する」「改築する」を意味する英語表現ではない。どちらも正誤判断の正解率が低く、「誤り（×）」と判断できても、その中で正しい英語表現を選択できたのは「リニューアル」（25.0%）、「リフォーム」（32.5%）とかなり低い。これらは「トレーナー」などの語と違い、英語の授業などでカタカナ語と英語の比較表現として取り上げられていることは少ないと予測される。

「ハプニング」については正誤判断の正解率は75%を超える（178名中134名）ものの、その内正しい英語表現を選択した者はわずかに6.7%（9名）であり、ほとんどの学生が“accident”を選択した。「ハプニング」というカタカナ語は英語の“happening”が日本語に置き換えられたものだが、もともと“happening”の意味は“something which happens; event”（*Longman Dictionary of Contemporary English* 1978）、また“things that happen, often in a way that is unexpected or hard to explain”（*Collins COBUILD English Dictionary for Advanced Learners* 改訂第3版 2001）である。すなわち、単なる「出来事」が“happening”の本来の意味であり、辞書によっては“unexpected（予期せぬ）”という意味合いを含めている場合もあるが、“unexpected happening”（『新編英和活用大辞典』1995）というコロケーションもあることから、“happening”は“unexpected”を必ずしも含まず、単に「出来事」と捉えられるのが適切であろう。しかし、それが日本語で「ハプニング」というカタカナ語になった時点で、本来の意味に近い「思いがけない出来事」に「偶発的な事件」（『日本語大辞典』第二版 1995 など）という否定的意味合いが付加された。調査に用いた例文においては、「ハプニング」を良い出来事とも悪い出来事とも示していない、つまり英語の“happening”の本来の意味に近い「（予期せぬ）出来事」の意味で出題したつもりであるが、学生のほとんどは日本的な「偶発的な事件」の意味と解釈したということである。従って、「ハプニング」の英語表現として、「思いがけない出来事」の意味を表す“something unexpected”ではなく、「偶発的な事

件」の意味を表す英語 “accident” を多くの学生が選択する結果となったと考えられる。

このような意味の捉え方は物事を否定的に捉える日本文化の影響である。鈴木（1973：18-25）は、外国のことばを理解する際に自国の文化が影響することを英語と日本語の諺を例に挙げて説明している。例えば、英語の諺の “It never rains but it pours” は日本では「不幸は度重なるもの」というような意味に取られており、英和辞典はどれも「(ことわざ) 降れば必ずどしゃ降り；災難不幸は一時に(続いて) 起こる」といった解釈を載せている。これは日本の諺「泣き面に蜂」や「ふんだりけったり」と同様の意味である。しかし、英語の諺の本来の意味はそうではなく、度重なって起こる出来事を災難や不幸だけに限っていない。「特に不幸が」と書いてあったとしても幸運を排除しているわけではなく、ただ単に「物事」や「出来事」が続いて起こる状況を表しているだけである。⁶⁾ 英語の辞書だけではなくフランス語の辞書も「不幸や幸運は決して単独ではやって来ないものだ」という説明を載せている。日本語の「どしゃ降り」ということば自体もこの諺を好ましくない方向に解釈させている原因かもしれないが、「悪いことはよく続く」や「いい事なんてそうは続かない」という言い回しをよく聞くように、もともと日本文化には物事を否定的に捉える傾向がある。

従って、「ハプニング」の解釈に関しても同様に、多くの学生が「偶発的な出来事」「思いがけない出来事」を「事故」や「災難」といった悪い出来事に限定し、否定的に捉えてしまったのではないかと考えられる。

③省略型

この型の語は、カタカナ語に相当する本来の英語の一部を省略して短くした表現である。次の5語がこの型の例である。

カタカナ語	正誤判断の 正解率	正誤判断正解者 中の選択の正解率	全体(178人)の 中での正答率
フロント	71.9%	64.1%	46.1%
アイスコーヒー	56.7%	54.5%	30.9%
プッシュホン	66.9%	65.5%	43.8%
ネック	41.6%	55.4%	23.0%
エンゲージ・リング	45.5%	95.1%	43.3%

「プッシュホン」などは、英語表記した場合に文法的におかしいと気付きそうだが、意外と正解率が低かった。これら省略型のカタカナ英語に対しては「少しの修正で正しい英語に変えることができる」（尾崎 2005 : 62）という意見もあるが、それほど簡単な作業とは言えない。なぜなら、省略の仕方に規則性があるわけではないので、同じ省略型と言っても、それぞれの語に一定の修正を加えれば正しい英語表現になるわけではないからである。上記の表のカタカナ語を正しい英語表現にするためには、「フロント」を“front desk”に（新たに別の語を付け加えて名詞化）、「アイスコーヒー」を“iced coffee”に（動詞あるいは名詞の“ice”を、動詞“ice”の過去分詞形容詞的用法から生まれた形容詞に）、「プッシュホン」を“push-button phone”に（動詞“push”を名詞“button”と合わせて複合語にし、形容詞に）、「ネック」を“bottleneck”に（“neck”の前に“bottle”を付け加え複合語に）、「エンゲージ・リング」を“engagement ring”に（動詞“engage”を名詞の派生形に）というように、修正の仕方はさまざまである。修正の仕方に規則性がなければ、新しい省略型の語に出合った時にどのように修正すればよいのか見当が付きにくい。またそれ以前の問題として、正しい英語表現に近いが少し異なる語を正しく省略型と判別できるのか。このような語は数が多くなればなるほど、学習者にとっては複雑になり、習得が困難になるだけである。

④純和製型

この型の語は、その語に相当する英語とかなり、あるいは全く異なる表現である。この型に含まれるのは以下のような語である。

カタカナ語	正誤判断の 正解率	正誤判断正解者 中の選択の正解率	全体(178人)の 中での正答率
ケース・バイ・ケース	37.6%	70.1%	26.4%
オープン・キャンパス	36.0%	9.4%	3.4%
フライド・ポテト	78.1%	78.4%	61.2%
タウンページ	74.2%	66.7%	49.4%
マイブーム	69.7%	22.6%	15.7%
ガソリンスタンド	92.7%	91.5%	84.8%
モーニング・コール	54.5%	60.8%	33.1%
フォアボール	55.1%	16.3%	9.0%
キャッシュコーナー	86.0%	41.2%	35.4%
サラリーマン	93.3%	92.8%	86.5%
ケアハウス	66.9%	71.4%	47.8%
セルフ・サービス	36.0%	59.4%	21.3%
ワイドショウ	86.5%	40.9%	35.4%
ペットボトル	83.1%	94.6%	78.7%
ファミリー・レストラン	73.0%	76.2%	55.6%
ゴールデン・ウィーク	68.0%	25.6%	17.4%
フリーダイヤル	71.3%	29.9%	21.3%
ホームステイ	48.9%	54.0%	26.4%
マイベース	79.8%	75.4%	60.1%

「オープン・キャンパス」は学生にとって馴染みのあるカタカナ語であるが、64%の学生は正しい英語表現であると思っている。正しくないと判断できたとしても、その中で正しい英語表現を認識できるのはわずか9.4%だけであった。

日本人は「マイ…」という表現をよく好んで使うと言われるが、「マイブーム」もその内の一つである。30%強の学生は正しい英語表現だと思っていることが示されており、また、正しくないと判断できた学生であっても、正しい英語表現の選択では、日本語文の「彼の」に合わせて77%強の学生が“his boom”を選択した。

「ゴールデン・ウィーク」については、7割近い学生がその英語表記に疑いは持ったが、その内の約75%の学生が“holiday week”を選択して

おり、「ゴールデン・ウィーク」が日本にだけ当てはまるものという認識がないようである。かつて、英語の書類に生年月日を記す際に、“showa”で書き始めていた学生がいたことを思い起こさせる。「昭和」が日本でだけ通用する元号であるという認識に欠けているための間違いである。

「ペットボトル」の「ペット (PET)」は、“polyethylene terephthalate”の下線部の文字を組み合わせせて造られた略語である。“PET bottle”と英和辞典に記載されている場合もあるようだが、通常このような言い方はせず、“plastic bottle”を用いる。

「ガソリンスタンド」や「ファミリー・レストラン」「セルフ・サービス」は比較的長めだからか、造り上げられた上に、さらに省略あるいは短縮されて、それぞれ「ガソスタ」「ファミレス」「セルフ」と表現されることも多い。和製英語という英語としては間違った表現を造り出し、さらにその間違った表現を短縮して使用するとなると、それはますます正しい英語表現から遠ざかってしまうことになる。「カンニング」(②の「意味ずれ型」に属する語)に「ペーパー」を付け加えて生み出された「カンニング・ペーパー」をさらに短縮した「カンベ」もこれと同様の表現である。このまま短縮した形が定着すれば、元の表現が分からなくなる危険性もある。

⑤他言語型

この型に属する語は、一見英語のようであるが、実は英語以外の言語から来ているカタカナ語である。今回は次の一語のみが該当する。

カタカナ語	正誤判断の 正解率	正誤判断正解者中 の選択の正解率	全体(178人)の 中での正答率
アルバイト	96.6%	98.3%	94.9%

アルバイトは学生たちにとって大変身近な話題であり、英語の授業で自己紹介をするときなどに、英語での表現の仕方を教わっている可能性が高いと予想される。従って、この表現を知っている学生の割合は全体の中で

94.9%（178 人中 169 人）と極めて高い結果となった。

⑥日本語と英語一致型

この型に属するのは、英語の発音がカタカナ表記され、また英語と同じ意味で使われている語である。

カタカナ語	正誤判断の正解率
フライト・アテンダント	86.0%
ジェネレーション・ギャップ	80.3%
サポーター	88.8%
ティーシャツ	97.8%
オーディエンス	84.3%
バリアフリー	58.4%
ガーデニング	54.5%
カタログ	48.3%
リーズナブル	59.0%
ガイドライン	59.0%

上記の結果からわかるように、「フライト・アテンダント」「ジェネレーション・ギャップ」「サポーター」「ティーシャツ」「オーディエンス」の 5 語については英語表記の正誤判断の正解率が 80% を超えたが、残りの 5 語については、その正解率は 60% にも満たなかった。また、「リーズナブル」の英語表記を誤りと判断した約 4 割の学生のほとんどが、その英語表現として“cheap”を選択していることから、「リーズナブル」の意味も日本語の中で取り違えてしまい、正しく把握できていないことがわかった。「英語と日本語一致型」については 10 語の分析ではあるが、カタカナ語と英語の判断の難しさ、曖昧さ、そして意味を把握しないままカタカナ語を使っている現状が浮かび上がった。

今回の調査では、私たちの回りに溢れるカタカナ語のほんの一部について調査をしたが、カタカナ語、英語、両方に触れることが多い学生であっても、その区別は曖昧であること、また、多くの場合において、カタカナ

語に対応する英語表現を正しく認識できていないことがわかった。この調査では、正しい英語表現を選択するという形式にしたが、それでも正答率がこれほど低いならば、自ら正しい表現を生み出すとなると、正答率はさらに低くなると予想される。

3. カタカナ語の影響

2の調査結果からも分かるように、和製英語であるにも関わらず、英語表記すれば英語として使うことができると間違った理解がされている場合が多くあり、英語の中でカタカナ語がそのまま使われてしまう可能性は高い。これらのカタカナ語を利用して、英語の語彙を増やしていくという考えもあるが、⁷⁾調査で用いたわずか50語のカタカナ語においてさえ、英語との区別や正しい意味の把握が曖昧である。また、形成の仕方にも省略の仕方にも一貫性や規則性が見出されないさまざまな型のカタカナ語を正しい英語表現に修正する方法にも、当然規則性はない。規則性のないばらばらのものを利用して有効な学習ができるのか疑問である。つまり、カタカナ語を英語学習に利用するのはそれほど簡単ではない。逆に、数え切れないくらい存在するカタカナ語は英語学習者を混乱させる材料になってしまう。誤解を生むようなカタカナ語を自ら造り出し、英語かどうか分からないまま英語として使ってしまう、自分で自分の首を絞めてしまっているのは、結局、日本の英語学習者なのである。

カタカナ語の影響は英語学習者に及ぶだけではない。日々新たなカタカナ語が造り出されている現状では、カタカナ語を英語学習に活用する以前に、その意味を日本語で把握することの方が困難かもしれない。2で明らかのように、「ハプニング」の解釈にも「リーズナブル」の解釈にも取り違えが見られたし、国立国語研究所が言い換え案を提出している外来語（カタカナ語）も日本語で正確に意味が理解されているとも思えない。例えば、「アクセシビリティ」「オーナーシップ」「オフサイトセンター」「カスタムメイド」「コンポスト」「センサス」「ネグレクト」「フリーランス」「リードタイム」「リターナブル」「ワンストップ」はどうであろう

か。国立国語研究所によると、年間に入ってくる外来語は 500 語にもなる。行政白書や新聞などに使われた分りにくい外来語について分かりやすい言い換え案を提出しているが、入ってくる外来語が多すぎて追いつかないのが現状である（加賀野井 2006: 41-42）。しかし、少し考えてみれば分かる通り、国民に情報を正確に伝えなければならない行政や新聞が分りにくい外来語（カタカナ語）を使うというのは、おかしい話である。

公的機関や刊行物でカタカナ語を使うことによって、日本語、日本文化に、そしてそれを有する日本社会に及ぼされる影響は大きい。2008 年 1 月に刊行予定の『広辞苑』第 6 版に新しく採録される約一万項目の内 4 割弱はカタカナ語だという。⁸⁾「サプライズ」「デパ地下」「レジ袋」「着メロ」などがその例である。10 年ぶりの改訂で約 4 千語のカタカナ語が新たに追加されるということは、この 10 年の間に身の回りにいかにカタカナ語が増加したかを示している。そして、これらのカタカナ語を辞書に掲載するという事は、それらの語が日本語の語彙として定着したという判断をした結果、すなわち日本語として認めた結果であるが、この辞書への掲載は日本語に、日本語の歴史に、大きな影響を与えることになる。

次のカタカナ語も公的な刊行物や電波を通して得られたものである。また、カタカナ語というだけではなく、すべて元のカタカナ語を省略あるいは短縮した形である。「コピペ（スレ）」（コピー＋ペースト（＋スレッド））、「タダコピ」（タダ（ただ）でコピー）、「チャイ語」（チャイニーズ（中国の）言語）、「ポストク」（ポスト・ドクター）、「ラケバ」（ラケットバッグ）、「コンボタ」（コーンポタージュ）、「メアド」（メールアドレス）、「クリパ」（クリスマスパーティー）、「ハピバ」（ハッピーバースデー）、「ラン（勝負）」（ランニング（勝負））、「プラごみ」（プラスチック製のごみ）、「インフォテインメント」（インフォメーション＋エンターテインメント）等々。挙げれば切りがない。

日本人の標^{しるし}として第一に挙げられるのは日本語である。日本語には日本社会の価値観、ものの見方や考え方、歴史が刻み込まれている。従来の日本語がカタカナ語に取って替わられたり、カタカナ語が新語として定着し辞書に掲載されるなど、言語面で変化するという事は、日本文化が変化

し、日本人の考え方や意識が変わり、社会が変わることにつながるということである。つまり、カタカナ語の影響は英語学習者に及ぶだけではなく、日本社会全体に及ぶのである。

カタカナ語（の省略）や日本語にカタカナ語を混ぜた言い回しが流行するのは、カタカナ語に格好良さや明るさ、軽さ、イメージの良さを求めているためだと言われることが多い。新鮮な感覚を求めての単なることば遊びの程度であればまだ許される向きもあるのかもしれないが、ことばでの正確な説明や対応が求められるところで無闇にカタカナ語を用いるのは許されるべきではない。例えば、「ボーダレス社会」「在宅ケア」「ケアハウス」「ケアプラン」などがその例として挙げられる。「在宅介護」と言うよりも「在宅ケア」と言った方が介護のイメージが軽く明るくなると考えられた結果の言い回しかもしれないが、しかしこれらの表現は実際の介護の状況をばかして伝えることになる。介護に関することばがばかされ、意味がはっきり伝えられなければ、実際に介護を受ける人々は非常に不安であるし、これらのカタカナ語を使用する意味は全くない。意味がないどころか、悪く取れば、介護される側の人々を弱者と捉え、ことば巧みに利用しようとしているだけではないかと疑いたくなる。大石（2001）によれば、カタカナ語は外国人にとってはおかしいもの、ストレスを与えるものの、不快なものということであるが、上に述べたような意味で、これらのカタカナ語は少なくとも年配の人々をはじめ一部の日本人にとっても不快なもの、ストレスを感じるものである。日本語の中で使われるのであるから外国人がどう思っても別に構わないなどと片付けてしまってよい問題ではないのである。実際、「インフォームドコンセントが普及しない原因としては、やはり一般的にアカウンタビリティというものが理解されていないので……」（加賀野井 2006：38）などという文にストレスを感じない日本人は、あるいはこの文を理解し説明できる日本人は、年配者に限らずどの位いるだろうか。⁹⁾

調査で使用したカタカナ語をはじめ約 80% のカタカナ語は英語に由来するものであるが、これらのカタカナ語は誰が造り出しているのか、どこまで浸透しているのか、個人個人がそれぞれ自分勝手に使用しているの

か、少なくともある世界の人は知っているのか。若者にしか通用しないカタカナ語や、特定の世界の人や特定の大学の学生にしか通用しないカタカナ語、あるいはさらに限られた特定の学科やクラブでしか通用しないカタカナ語などは、そこに所属しない者とのコミュニケーションの際には妨げにしかならない。つまり、ことばはコミュニケーションの道具であると言う人は多いが、しかし、これらのカタカナ語は仲間内でのコミュニケーションには道具として役立つとしても、外の世界の人とのコミュニケーションの際には全く役には立たない。

学校でも家庭でもコミュニケーション重視の方向にあるが、カタカナ語の日常的な使用は相互に意図の伝わりにくい、意味が曖昧なままのコミュニケーション活動を促すことになる。これは英語学習だけではなく、それ以前の問題として、日本語の健全な使用を妨げることになる。日本語では「てにをは」が合っていれば、よく分からないことばがあっても感覚的に意味を捉えて分かったような気になって許してしまうところがあり、「ワールドワイドなストラテジーをデベロッパする」というような訳の分からない表現であっても許してしまいかねない（加賀野井 2006：95）。日本語なのか英語なのか何語なのか不明瞭で、意味の曖昧なカタカナ語がこれ以上増えれば、明確に物事を伝えなければならない時に、また意思疎通を図ろうとする時に、問題は大きくなるだろう。社会を形作るのはことばであるということを、日本人の話す日本語に問題があるということはその日本人で構成される日本社会が問題を抱えているということを日本人はもっと認識し、ことばを鍛えなければいけない。ことばは社会の鏡なのである。

4. カタカナ語が溢れる理由

2 および 3 でカタカナ語の問題点がいくつか指摘されたが、しかし日本にカタカナ語が氾濫しているのは事実である。弊害がありながらも氾濫する理由は何なのだろうか。ここでは、日本語に見られる言語現象からその理由を考えてみる。

日本語の中のカタカナ語に関して、森光・中島（2006：87-88）で次のように述べた。

日本語の中のカタカナ語は文意を曖昧にしたり誤摩化したりしているように見え、書き手が実は言いたいことを明確に持たない、あるいは考えを持っていても、それを伝えることばを知らないのではないかという印象さえ与える。意図的に中身をぼかし、イメージだけを伝えようとしていると思える場合もあり、それは最近の職業名にもよく見られる。…（中略）…格好いいとか洒落ているとか現代風で流行に乗っているなどという理由なのかもしれないが、一体何をする仕事なのか、仕事の中身が曖昧にされてしまっていたり、全く見当がつかないという感がある。これもはっきり物事を言うのを避けようとする日本文化の表れなのか。いずれにしても、不親切な印象を与える。

森光（2004）では物事をはっきり言わずに済ましてしまう日本語の特徴を示し、また森光（2007）では日本語がイメージの言語であると主張したが、カタカナ語が表す曖昧さやイメージはもともと日本語が持っている特徴とぴったり合致するのである。

曖昧表現を通して、話し手と聞き手が、それぞれ言ったつもり、分かったつもりになっていることも多いと思われるが、ここでいくつかの言語現象を観察し、この特徴を改めて確認する。次の例（1）－（5）を見てみよう。¹⁰⁾

- (1) うるさい。
- (2) このドアは使えません。
- (3) この指輪、少し緩いんですけど。
- (4) ズボンで手を拭いてはいけません。
- (5) 顧客第一主義

このような表現は日常的に使用されている一般的な表現であるが、どの

例を見ても婉曲的であったり曖昧であったりする。(1)と(2)はそれぞれ他の人に静かにしてほしいこと、別のドアを使ってほしいことを伝える文だが、いずれもそれを間接的に伝えようとしているだけで、直接的な表現ではない。ただ置かれている状況を指摘しているに過ぎず、聞き手(読み手)が取るべき行動を直接指示しているのではない。宝石店で聞かれる(3)も同様である。話し手はやはり状況を指摘しているだけで、聞き手はこの発話と置かれている状況から自分がすべきことを判断するのである。

また、(4)のような表現で取ってはいけない行動を指摘された場合、聞き手は次にどのような行動に出るだろうか。聞き手は手を拭くのに何を使えば良いのかをはっきりと言われているのではなく、ただズボンを手拭きに使用してはいけないとだけ言われている。従って、それが手を拭くのに適切であるかどうかは関係なく、聞き手はズボン以外の物を利用するだけかもしれない。実際、『クレヨンしんちゃん』の一場面でお母さんにこのことばを言われたクレヨンしんちゃんが次に取った行動は、ズボンを脱いで下着で手を拭くという行為である。クレヨンしんちゃんは日本語の曖昧さを鋭く突いているのである。

日本の企業のスローガンに多い(5)についても同様のことが言える。聞き手である社員は何をすれば良いのかを具体的に示されているわけではない。どのような行動を取るかは聞き手の判断に委ねられているのであるが、しかしこの表現はあまりにも曖昧すぎて、このスローガンの下ですべての社員が同じ行動を取れるとは思えない。実際、就職活動を経験した学生数名から聞いた話によると、面接で「顧客第一主義」と言われた場合に取り行動を尋ねられた時、答える側は一人一人違う意見を述べていたという。入社後、これらの人たちがそれぞれの思う「顧客第一主義」を実践した場合、それは本当の意味で会社のスローガンと言えるのか疑問である。

(1)－(5)について共通して言えることは、話し手(書き手)は聞き手(読み手)にどのような行動を取ってほしいのかという一番大切な部分を明示せず、それをただ間接的にほのめかすことによって後の行動は聞き手の判断に依存しているということである。

例 (1)－(5) に対応する英語の例としては、例えば次の (6)－(10) が考えられる。

- (6) Be quiet.
- (7) Use another door.
- (8) Could you make this ring a little bit tighter?
- (9) Dry your hands with a towel.
- (10) Keep waiting time less than 60 seconds.

いずれも話し手（書き手）は聞き手（読み手）に取るべき行動を直接的に、あるいは具体的に指示している。これらの英語の表現と比較してみると、日本語の曖昧さがはつきりする。

この言語の相違は、高文脈言語／文化と言われる日本語／日本文化と低文脈言語／文化である英語／英語文化の違いの表れと言える。また、真実の追求よりも人間関係が大切と考え、そのために表現が婉曲、曖昧になる日本語と、真実を追い求める議論によって人間関係が壊れるとは思わないと考え、そのため表現が直截的になり、知的論争や冷静な議論の型を好む英語の違いである。

以上のように、日本はもともと曖昧な文化、イメージを大切にする文化を持つ。言ったつもりで本当は言わずに済まそうとするカタカナ語は、その日本社会では居心地が良いのである。

さらに考えられることは、カタカナ語は人々が表現に新鮮さを求める結果誕生するということである。歴史的に見て、日本はさまざまな外国語から語を借入してきた。新しい文体を取り入れたこともある。これは既存の語や表現では表し切れない要素を表すために取られた手段と考えられる。カタカナ語もその手段の一つであろう。最も分かりやすい例は、それ以前には日本文化に存在しなかったものを取り入れた場合である。考えられることは、日本文化に存在しなかったものを表すことばも、当然のことながら、日本語に存在したはずがないため、新しいものや概念などを取り込む時には、それらを表す表現が同時に誕生することになるということであ

る。その際、ことばも同時に取り入れて、その借入語をそのままカタカナ表記で表すのが簡単な方法かもしれない。そして実際、そのままカタカナ表記で表している場合もある。また、取り入れた語を日本語風に発音し、短縮や別の語との組み合わせなどで形を変え、意味を変え、完全に日本語化させたカタカナ語を生み出し用いている場合も多い。このようなカタカナ語の生産・使用によって、人々は既存の表現では十分に表し切れなかったものを表し、これまでになかった表現を楽しんでいるとも言える。

このような現象はなぜ起こるのか。時代が求めている場合もあるが、しかしいつの時代にもより新しい表現を求め、生み出す人々がいる。携帯電話でメール機能を使用することがごく普通になっている若者たちもそうである。このような若者たちは少しでも速く文字を入力するため、また自分たちの仲間意識から、自分たちだけに通用する省略語などを造り出し使用している。「(あの人) **KY** ね」(「空気が読めないね」という意味) や「**HK**」(「話は変わるけれど」という意味) などがそうである。ギャル文字と呼ばれているものも仲間意識から誕生した文字と考えられる。このような若者の表現の仕方や流行語だけではなく、カタカナ語もまた、新鮮さを求めて誕生したのが多いと考えられよう。

お わ り に

この論文では、日本に溢れるカタカナ語の現状とそのカタカナ語が英語学習、また日本社会に与える影響を見てきた。しかし、昨今の傾向として、「日英混交文」と言われるものが見え始めた。¹¹⁾「外来語が使われすぎて新鮮さを失い、それに代わる機能が英語に求められている」とする見方もあるが、¹²⁾より新鮮だからという単純な理由だけで新しい文体に飛びついてよいわけではない。

カタカナ語が日本語に大きな影響を与えているのは上で述べた通りであるが、そのカタカナ語よりも「日英混交文」はさらに大きな影響を日本語に与える危険性を孕んでいる。カタカナ語の場合、その品詞の多くは名詞である。これは今回実施した調査の語を見ても明らかである。名詞以外に

考えられるのは、形容詞、副詞、動詞であるが、これらはいずれも内容語であり、その増加が主な問題点である。しかし「日英混交文」の場合は、内容語へではなく、機能語への影響が大きい。前置詞や冠詞など日本語に本来ない要素を用いたり、またそれらを使用することによって起こる語順の変化など、日本語の文法に大きな影響を与える結果となる。例えば、「THE 有頂天ホテル」に見られる冠詞の使用や「舞妓さん in 富良野」における前置詞の使用と語順の変化である。¹³⁾ また、新聞の広告欄で連載されているのであるが、¹⁴⁾ 「〇〇氏の ON」あるいは〇〇氏が「ON タイムについて語」ということばからは意味がよく伝わってこない。そこで語られている内容は自分の仕事についての考え方や姿勢であるが、これが「ON (タイム)」なのであろうか。そして明らかに「ON タイム」は“on time”であるはずもない。一体何を意図しようとしていることばなのかよく見えてこない。伝わるのはイメージだけである。さらに、家具店のチラシで見つけた「家具コレ in Autumn!」は日本語の「家具」に「コレクション」を短縮したカタカナ語「コレ」と“in Autumn”という英語の前置詞句を混ぜた表現で、とても日本語とは思えない。また、そこに、既に使用が日常化しているのは確かであるが、本来日本語の符号ではない感嘆符を使用している。これを「多彩な表現力」と言う人もいる。¹⁵⁾ 確かに、表現の面では豊かになるかもしれないが、それは日本語本来の表現力ではない。

日本語のことばの変化はこれまでも内容語の増減だけに留まらず、「ら」抜きことばや「さ」入れことば、「こちら…になります」「…でよろしかったでしょうか」などのバイト用語に見られるように、機能の部分にも生じている。「日本語の中の外国語も」外来語と同様、「許容範囲を超えたり、TPO をわきまえない使い方をしたりすれば、批判の対象になる」とする主張もあるが、¹⁶⁾ 外来語・カタカナ語については許容範囲を超えていると思われるものについても批判の対象になってはいない。むしろそのようなタイプの表現は増産されている。一般的に見て、日本語はことばの変化に対して寛容なのである。

それ故に、「日英混交文」に対しても同様に寛容なのか。文法関係を表

す機能に関わる部分が変化するという事は、組織的変化である。単に語の増減の問題ではない。日本語はそれを認めてよいのだろうか。

ことばは生き物であり、言語変化は避けられないものであることはよく分かっている。また、ことばは社会の変化につれて変化するという事も理解している。しかし、時代が求める変化であるからという理由で、これらのことばの変化は仕方がないのだろうか。それとも食い止めなければならないのだろうか。これはおよそ答えの出ない問題であるが、だからと言って、何も考えずにおいて良いはずはない。このような言語現象は日本語自体に非常に重大な、また深刻な影響を及ぼすことには間違いないのである。

資 料

1. 配付した調査用紙

下記の A 欄の日本語を読み、下線部のカタカナ語を正しく表す英語表現について答えてください。カタカナ語を英語の単語にした形（A 欄に表記）が正しい英語表現だと思う場合には、〈例 1〉のように A 欄に○をつけ、A 欄の英語表記が正しい英語でないと思う場合には、〈例 2〉のように、A 欄に×をつけ、B 欄の選択肢の中から正しい表現を選んで記号に○をつけてください。ただし、A 欄・B 欄のカタカナ語と英語の品詞が一致しているとは限りません。

		A	B
〈例 1〉	○	日本人は <u>シャイ</u> だとよく言われる。 shy	a. embarrassed b. nervous
〈例 2〉	×	あなたの <u>セールスポイント</u> はどこですか。 sales point	a. sell point ①. strong point
1		それは <u>ケース・バイ・ケース</u> だ。 case by case	a. It depends. b. case in case
2		今日、新しい <u>トレーナー</u> を買った。 trainer	a. sweat shirt b. sports wear
3		ホテルの <u>フロント</u> で会いましょう front	a. service desk b. front desk
4		彼女は <u>フライト・アテンダント</u> になった。 flight attendant	a. flight officer b. flight companion

日本に溢れるカタカナ語とその影響

5	英語の <u>レベル・アップ</u> を目指す。 level up	a. improve b. grade up
6	<u>アイスコーヒー</u> をください。 ice coffee	a. cold coffee b. iced coffee
7	今度の土曜日は <u>オープン・キャンパス</u> だ。 open campus	a. open house b. free campus
8	<u>ジェネレーション・ギャップ</u> を感じる。 generation gap	a. age gap b. generation zone
9	<u>ハンバーガーとフライド・ポテト</u> を注文した。 fried potato	a. French fries b. potato chips
10	秋も近まり、夏服が <u>プライスダウン</u> された。 price down	a. sales down b. discount
11	<u>タウンページ</u> で探してみよう。 Town Page	a. Yellow Pages b. City Pages
12	彼の <u>最近のマイブーム</u> は何ですか。 my boom	a. enjoy b. his boom
13	彼は <u>アバウト</u> な人間だ。 about	a. irresponsible b. fuzzy
14	<u>ガソリンスタンド</u> に立ち寄る。 gasoline stand	a. gas station b. gas shop
15	ダイエットにはげんだ結果、彼女は <u>スマート</u> になった。 smart	a. narrow b. slender
16	多くの <u>サポーター</u> もドイツに行った。 supporter	a. helper b. cheer leader
17	ホテルで <u>モーニング・コール</u> を頼んだ。 morning call	a. wake-up call b. alarm call
18	イチローは <u>フォアボール</u> で塁に出た。 four ball	a. walk b. four balls
19	銀行には <u>キャッシュコーナー</u> が設けられている。 cash corner	a. ATM b. cashing corner
20	父は <u>サラリーマン</u> だ。 salary man	a. office worker b. blue-color worker
21	この店の <u>ティーシャツ</u> はおしゃれだ。 T-shirts	a. tea shirts b. T-jackets
22	点検項目を <u>リスト・アップ</u> する。 list up	a. list b. wrist
23	<u>ケアハウス</u> で働く。 care house	a. nursing home b. caring home
24	お気に入りの店は <u>リニューアル</u> 中だ。 renewal	a. renovate b. reopen

25	セルフ・サービスのレストランは安い。 self-service	a. Viking-style b. buffet-style
26	ワイドショウは芸能界のゴシップが好きだ。 wide show	a. variety show b. variety program
27	イチローのサインが欲しい。 sign	a. signature b. autograph
28	オーディエンスの反応が気になった。 audience	a. customer b. listener
29	バリアフリーの住宅が増えた。 barrier-free	a. non-step b. non-barrier
30	ペットボトルと缶を分別して捨てる。 pet bottle	a. plastic bottle b. vinyl bottle
31	彼女の趣味はガーデニングだ。 gardening	a. garden-work b. garden-make
32	我家をリフォームすることにした。 reform	a. renovate b. renewal
33	ファミリー・レストランで食事をした。 family restaurant	a. restaurant b. family style restaurant
34	最近ではプッシュホンしか見ないと言ってもよい。 push phone	a. push-button phone b. press phone
35	この科目のレポートは今週末までに提出してください。 report	a. term paper b. report paper
36	今年のゴールデン・ウィークは京都に行った。 golden week	a. a series of holidays b. holiday week
37	カタログで商品を注文した。 catalog	a. order book b. order pamphlet
38	この問題のネックはどこにあるのだろうか。 neck	a. bottleneck b. necklace
39	フリーダイヤルに電話する。 free dial	a. toll-free b. dial-free
40	彼はついにエンゲージ・リングを用意した。 engage ring	a. engagement ring b. fiancé ring
41	カンニングをしたら失格です。 cunning	a. cheating b. looking
42	アメリカで1ヶ月ホームステイする予定だ。 homestay	a. stay with a family b. stay at home
43	以前に比べ、コンピューターの値段がリーズナブルになってきた。 reasonable	a. cheap b. nice
44	最近、彼女はイメージアップを図っている。 image up	a. improve her image b. up image

45	この部屋の <u>コンセント</u> はどこですか。 consent	a. outlet b. power plug
46	大学の <u>サークル</u> に入った。 circle	a. club b. group
47	彼女は何でも <u>マイペース</u> で進める。 my pace	a. her own pace b. her pace
48	使用可能な用語について、国が <u>ガイドライン</u> を出した。 guideline	a. guidance b. orientation
49	授業中、 <u>ハプニング</u> が続出した。 happening	a. something unexpected b. accident
50	週末は <u>アルバイト</u> で忙しい。 arbeit	a. part-time job b. hourly job

2. 調査結果一覧表

(1) 正誤判断の正解者が少ないカタカナ語から順に並べたもの

問題 番号	カタカナ語	正誤判断での正解者		正誤判断正解者の内		全体 (178人) の内 正答率(%)
		人数 (人)	正解率 (%)	正答者数 (人)	正答率 (%)	
32	リフォーム	40	22.5	13	32.5	7.3
22	リスト・アップ	50	28.1	43	86.0	24.2
7	オープン・キャンパス	64	36.0	6	9.4	3.4
24	リニューアル	64	36.0	16	25.0	9.0
25	セルフ・サービス	64	36.0	38	59.4	21.3
1	ケース・バイ・ケース	67	37.6	47	70.1	26.4
35	レポート	74	41.6	13	17.6	7.3
38	ネック	74	41.6	41	55.4	23.0
40	エンゲージ・リング	81	45.5	77	95.1	43.3
37	カタログ	86	48.3	---	---	---
42	ホームステイ	87	48.9	47	54.0	26.4
17	モーニング・コール	97	54.5	59	60.8	33.1
31	ガーデニング	97	54.5	---	---	---
44	イメージアップ	97	54.5	80	82.5	44.9
18	フォアボール	98	55.1	16	16.3	9.0
6	アイスコーヒー	101	56.7	55	54.5	30.9
29	バリアフリー	104	58.4	---	---	---
43	リーズナブル	105	59.0	---	---	---

48	ガイドライン	105	59.0	---	---	---
27	サイン	110	61.8	53	48.2	29.8
23	ケアハウス	119	66.9	85	71.4	47.8
34	プッシュホン	119	66.9	78	65.5	43.8
46	サークル	120	67.4	109	90.8	61.2
36	ゴールデン・ウィーク	121	68.0	31	25.6	17.4
12	マイブーム	124	69.7	28	22.6	15.7
39	フリーダイヤル	127	71.3	38	29.9	21.3
3	フロント	128	71.9	82	64.1	46.1
5	レベル・アップ	129	72.5	58	45.0	32.6
10	ブライسدウン	129	72.5	80	62.0	44.9
33	ファミリー・レストラン	130	73.0	99	76.2	55.6
11	タウンページ	132	74.2	88	66.7	49.4
49	ハプニング	134	75.3	9	6.7	5.1
9	フライド・ポテト	139	78.1	109	78.4	61.2
41	カンニング	141	79.2	119	84.4	66.9
45	コンセント	142	79.8	48	33.8	27.0
47	マイベース	142	79.8	107	75.4	60.1
8	ジェネレーション・ギャップ	143	80.3	---	---	---
30	ペットボトル	148	83.1	140	94.6	78.7
28	オーディエンス	150	84.3	---	---	---
4	フライト・アテンダント	153	86.0	---	---	---
19	キャッシュコーナー	153	86.0	63	41.2	35.4
26	ワイドショウ	154	86.5	63	40.9	35.4
15	スマート	156	87.6	156	100.0	87.6
16	サポーター	158	88.8	---	---	---
2	トレーナー	159	89.3	112	70.4	62.9
13	アバウト	160	89.9	61	38.1	34.3
14	ガソリンスタンド	165	92.7	151	91.5	84.8
20	サラリーマン	166	93.3	154	92.8	86.5
50	アルバイト	172	96.6	169	98.3	94.9
21	ティーシャツ	174	97.8	---	---	---

- (2) 正誤判断で正解し、かつ正答を選択した者が少ないカタカナ語から順に並べたもの、あるいは全体の中で正答率の低いカタカナ語から順に並べたもの（「日本語と英語一致型」については表の最後に正誤判断正解者の少ないカタカナ語から並べている）

問題 番号	カタカナ語	正誤判断正解者の内		全体 (178人) の内 正答率(%)	正誤判断での正解者	
		正答者数 (人)	正答率 (%)		人数 (人)	正解率 (%)
7	オープン・キャンパス	6	9.4	3.4	64	36.0
49	ハブニング	9	6.7	5.1	134	75.3
32	リフォーム	13	32.5	7.3	40	22.5
35	レポート	13	17.6	7.3	74	41.6
24	リニューアル	16	25.0	9.0	64	36.0
18	フォアボール	16	16.3	9.0	98	55.1
12	マイブーム	28	22.6	15.7	124	69.7
36	ゴールデン・ウィーク	31	25.6	17.4	121	68.0
25	セルフ・サービス	38	59.4	21.3	64	36.0
39	フリーダイヤル	38	29.9	21.3	127	71.3
38	ネック	41	55.4	23.0	74	41.6
22	リスト・アップ	43	86.0	24.2	50	28.1
1	ケース・バイ・ケース	47	70.1	26.4	67	37.6
42	ホームステイ	47	54.0	26.4	87	48.9
45	コンセント	48	33.8	27.0	142	79.8
27	サイン	53	48.2	29.8	110	61.8
6	アイスコーヒー	55	54.5	30.9	101	56.7
5	レベル・アップ	58	45.0	32.6	129	72.5
17	モーニング・コール	59	60.8	33.1	97	54.5
13	アバウト	61	38.1	34.3	160	89.9
19	キャッシュコーナー	63	41.2	35.4	153	86.0
26	ワイドショウ	63	40.9	35.4	154	86.5
40	エンゲージ・リング	77	95.1	43.3	81	45.5
34	プッシュホン	78	65.5	43.8	119	66.9
44	イメージアップ	80	82.5	44.9	97	54.5
10	プライスダウン	80	62.0	44.9	129	72.5
3	フロント	82	64.1	46.1	128	71.9
23	ケアハウス	85	71.4	47.8	119	66.9
11	タウンページ	88	66.7	49.4	132	74.2

33	ファミリー・レストラン	99	76.2	55.6	130	73.0
47	マイペース	107	75.4	60.1	142	79.8
46	サークル	109	90.8	61.2	120	67.4
9	フライド・ポテト	109	78.4	61.2	139	78.1
2	トレーナー	112	70.4	62.9	159	89.3
41	カンニング	119	84.4	66.9	141	79.2
30	ペットボトル	140	94.6	78.7	148	83.1
14	ガソリンスタンド	151	91.5	84.8	165	92.7
20	サラリーマン	154	92.8	86.5	166	93.3
15	スマート	156	100.0	87.6	156	87.6
50	アルバイト	169	98.3	94.9	172	96.6
37	カタログ	---	---	---	86	48.3
31	ガーデニング	---	---	---	97	54.5
29	バリアフリー	---	---	---	104	58.4
43	リーズナブル	---	---	---	105	59.0
48	ガイドライン	---	---	---	105	59.0
8	ジェネレーション・ギャップ	---	---	---	143	80.3
28	オーディエンス	---	---	---	150	84.3
4	フライト・アテンダント	---	---	---	153	86.0
16	サポーター	---	---	---	158	88.8
21	ティーシャツ	---	---	---	174	97.8

注

- 1) ある小学校の3年生から6年生、計139人を対象にカタカナ語調査を実施した。語彙の認識、音声認識の面等で調査を行ったが、この調査結果から児童にもカタカナ語がかなりの程度で浸透していることが分かった。
- 2) 小林（1999）、野角（1998）等、参照。
- 3) 他の危険性として、英語の発音とカタカナ語の発音が異なるということを認識できていないということが挙げられる。その結果、カタカナ語としては十分に認知している語を英語の発音で聞いた時にそれと認識できないという問題が生ずる。
- 4) 尾崎は、今回ここに分類したカタカナ語のうち、「キャッシュコーナー」と「ゴールデン・ウィーク」は「英語表現不在型」に分類している。
- 5) 尾崎（2005）の分類にはないが、この「日本語と英語一致型」も一つの

カタカナ英語の型である。

- 6) 鈴木は次の例を挙げて、英語圏での（少なくともイギリスでの）この諺の捉えられ方を証明している：As a matter of fact I went to Hurst Park. Backed two winners. It never rains but it pours! If your luck's in, it's in! (実はハーストパークに行きました。二度も勝馬をあてたんですよ。いいことは続くものですね。ついてるときは、ついてるものです。) (A. Christie, *After the Funeral*) ここでは “It never rains but it pours” の意味は「いいことは続くものですね」であり、この後に “If your luck's in, it's in! (ついてるときは、ついてるものです)” が続いているということは、英語圏（少なくともイギリス）では、度重なる出来事について幸不幸は区別されていないということを示している。
- 7) 注 2) 参照。
- 8) 毎日新聞記事「広辞苑現代語満載」(2007 年 10 月 24 日) 参照。
- 9) 「インフォームド・コンセント」の意味と英語の本来の意味とのずれについては、鳥飼 (2007) 参照。
- 10) 以下の例 (1) - (3)、(5) - (8)、(10) については本間 (2002) を、例 (4) と (9) については妻鳥 (2004) を参照。
- 11) 国立国語研究所・情報資料部門文献情報グループ長、伊藤雅光のことでば。平安時代に生まれた和漢混交文になぞらえて名付けた。
- 12) 朝日新聞記事「『英語交じり文』増殖中」(2007 年 5 月 2 日) 参照。
- 13) 注 12) 参照。
- 14) 朝日新聞の広告。他にも、朝日のホームページなどで同様の言い回しをしている。
- 15) 注 12) 参照。
- 16) 注 12) 参照。

参考文献

- 本間正人 (2002) 『英語で鍛えるロジカルシンキング!』日経 BP 社
- 加賀野井秀一 (2006) 『日本語を叱る!』筑摩新書
- 小林忠夫 (1999) 『カタカナ語の正体 外来語のルーツをさぐる』丸善ライブラリー
- 森光有子 (2004) 「日英語の発想の違いーことばを尽くす英語と言わずに済ます日本語ー」『相愛大学研究論集』第 20 巻. pp. 49-70.
- (2007) 「主観的把握と客観的把握ーなぜ日本語には擬声語・擬態語が多いのかー」『相愛大学研究論集』第 23 巻. pp. 19-45.
- ・中島寛子 (2006) 「小学校英語教育を考えるー児童英語教育におけるカタカナ語の影響に焦点を当ててー」『相愛大学研究論集』第 22 巻.

pp. 69-91.

野角幸子（1998）『日本社会にあふれるカタカナ語』新風舎

大石五雄（2001）『カタカナ英語と変則英語—危険な日本英語の実態に迫る』

鷹書房弓プレス

尾崎哲夫（2005）『英単語が自然に増える』集英社新書

鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』岩波新書

鳥飼玖美子（2007）「カタカナ語に見る意味のずれ」『言語』Vol. 36, No. 6.

pp. 52-59. 大修館書店

妻鳥千鶴子（2004）『英語プレゼンテーション—すぐに使える技術と表現』ベレ出版

山口仲美（2007）『若者言葉に耳をすませば』講談社

辞書：

市川繁治郎他（編集）（1995）『新編英和活用大辞典』研究社

梅棹忠夫・金田一春彦他（監修）（1995）『日本語大辞典』第二版 講談社

『広辞苑』第五版（1998）岩波書店

Collins COBUILD English Dictionary for Advanced Learners 改訂第3版
（2001）

Longman Dictionary of Contemporary English （1978）

その他：

朝日新聞記事「『英語交じり文』増殖中」（2007年5月2日）

毎日新聞記事「広辞苑現代語満載」（2007年10月24日）

朝日新聞広告

<http://www.asahi.com/lh>

NHK ニュース